

熊本・白藤遺跡群 しらふじ

- 1 所在地 熊本市島町大字屋敷
- 2 調査期間 第六次調査 一九九七年(平9) 四月～一九九八年一月

- 3 発掘機関 熊本市教育委員会

- 4 調査担当者 林田和人・原田範昭

- 5 遺跡の種類 集落跡

- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(熊本)

白藤遺跡群は、熊本市南西部の島町・鳶町・刈草町・白藤町にまたがる遺跡の総称である。弥生時代中期から江戸時代にかけての複合遺跡で、微高地上に集落が立地している。今回の調査は第六次調査で、弥生時代中期・後期の土器・石器類と、中世・近世の土器・陶磁器のほか石製品・木製品など、大量

の遺物が出土している。特に、溝から多量の木製品が出土し、また近世の溝からは底部に「安信」銘をもつ陶磁器片も出土している。今回報告する墨書のある曲物は、近世の溝から出土した。遺構の細かな年代は、出土遺物が未整理のため限定できていない。

- 8 木簡の釈文・内容

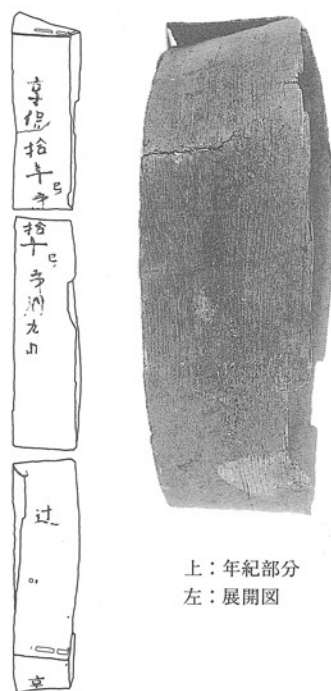
(1) 享保拾年五月九日 辻 寛 210×660 061

曲物の蓋の側板であろうか、釘跡らしき孔が穿たれている。なお、享保一〇年は西暦一七二五年にあたる。

- 9 関係文献

熊本市教育委員会『熊本市埋蔵文化財調査年報』三(二〇〇〇年)

(林田和人)



上: 年紀部分
左: 展開図